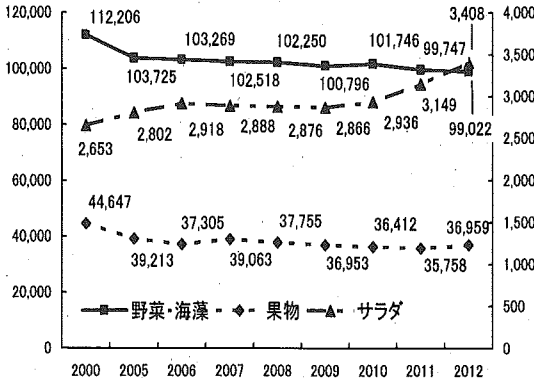


# 野菜支出は年々減少

## サラダや冷食、惣菜セットは増加

(一部既報) 総務省がまとめた2012年の家計調査によると、2人以上の世帯(平均世帯人員3.07人、

### 野菜・海藻、果物、サラダの年間消費支出推移 (2人以上世帯、1世帯当たり、円)



世帯主の平均年齢57.5歳(左表)の消費支出は年間34万3千402円(1か月平均28万6千169円)で、震災のあった前年に比べ名目・実質とも1.1%増加した。名目では07年、実質では10年以来的の前年比プラスとなる。ただし、10年(年間34万8千293円)の水準には届かなかった。

消費支出のうち食料は年間87万9千402円で0.8%増加。調理食品や飲料、外食などで増加したものの、野菜・海藻、魚介類、肉類では減少した。なかで

も野菜・海藻は11年に年間10万円を切り、全体的に減少している(上グラフ)。一方果物は、前年の出回りが全体的に少なめだったこともあり、3.4%増加した。

野菜ではトマト、レタス、ブロッコリーなどのサラダ野菜は購入数量・支出とも増加。ジャガイモ、タマネギといった常備野菜は購入数量が微増したものの、価格安の影響で支出は前年を下回った。果物では価格安となったミカンやブドウ、カキなどで購入数量・支出とも増加した。

主婦の年収・仕事時間増加で食は簡便志向

実収入は、2人以上の勤労者世帯で年間62万2千207円(1か月平均5万1千98円)となり、名目・実質とも1.6%増加。収入の増加も、支出の増加につながっていると見られる。このうち世帯主の収入は実質・名目とも0.2%の増加にとどまったが、世帯主の配偶者の収入は実質・名目とも10.5%増加した。

配偶者の収入は月額5万9千717円で、前年より6270円アップしたことになる。時給900円で計算しても約7時間分多く働くことになり、それだけ家事に費やす時間も少なくなるのが考えられる。こうした状況も影響してか、支出の動向にも簡便化志向がかがえる。

穀類では即席めん(年間1万798円)が3.0%増加した。調理食品では、弁当、おにぎり、調理パンな

どの「主食的調理食品」の増加に加え、冷凍調理食品(5888円)が4.5%増加、惣菜調理セット(3998円)は16.9%増加した。また、サラダ(3408円)は8.2%の急伸。野菜価格高騰による需要増加も考えられるが、その結果「手軽さ」が認知され食卓に浸透しつつあると見られる。2000年の支出金額は2653円だったが、11年には3千円台に入った。

また、野菜・果実ジュース(8840円)は、「トマトのメタボリックシンドローム改善効果」一報の影響も受け4.4%増加した。さらに、収入の増加も反映してか外食も増加したが、10年(16万0千230円)の水準には届かなかった。